

定時制高校の再編整備にあたって

1 基本的な考え方

現在の定時制高校は、就労のため夜間に学びの場を求めている入学者だけではなく、不登校経験のある生徒など、多様な学習・生活歴をもった生徒が多く入学している。そのため、定時制高校は、「学びの場」であると同時に「居場所」としての役割を担っている。高等学校改革プラン検討委員会からの最終報告書に基づき、このような「学びの場」と「居場所」に配慮した、多部制・単位制の独立校を、各通学区にそれぞれ1校ずつ配置することが適切と考える。

多部制・単位制高校の配置にあたっては、通学区内の定時制課程の再編整備を行うとともに、多様なニーズに応えるため、他の高校とのネットワーク化を推進し、通学区内の定時制高校の中心校として充実を図っていく必要がある。

なお、「居場所」としての学校の具体案を策定する中では、保護者、地域、NPOなどとの連携を図るなど、さまざまな工夫により、生徒の居場所づくりに配慮していく必要がある。

2 再編整備に係わる定時制充実に向けた取組

従来から取り組んできている「始業前講座」や「習熟度別講座」、大学生の協力による「チューター制」などの定時制教育の充実策に加え、定時制課程の再編整備にあたって、以下のような支援策を講じていくことが必要であると考えられる。

(1) 学校生活の支援に係わる事項

- ・募集停止した学校の空き教室を活用して、生徒や保護者、地域の要望に応じて相談室を開設する。相談室には遠隔学習のためのパソコン等の機器の整備をするとともに、その運営にあたっては、公設民営やNPOへの運営委託などの可能性も視野に入れる。
- ・定時制課程を単位制に移行し、単位制の利点を活かして、転入学や所属学科の変更を積極的に受け入れる態勢づくりを行う。
- ・第1通学区と第4通学区の多部制・単位制高校には通信制を併置し、それぞれ東北信、中南信地区の中心校とする。東信地区及び南信地区に設置する多部制・単位制高校には、中心校と連携した通信制のスクーリング会場を設置する。

(2) 学習活動支援・居場所づくりに係わる事項

- ・単位の互換を図り、他校との併修を可能にする。
- ・e-Learning などを利用した遠隔学習、複数高校間・異種学校間の協調学習、授業時間外での学習活動支援、仮想的な学習コミュニティを構築する。
- ・長期休業等に複数校で共催する集中講座、学習合宿の実施や、その単位認定を行う。